

天溪 キリマンジャロ (5,895m) とサファリ 12日間

「キリマンジャロ (5,895m) とサファリ 12日間」を2月13日～2月24日に行いました。今年最初の天溪ツアーはアフリカ大陸の最高峰、すなわち7大陸最高峰の一つ キリマンジャロ登頂とサファリ。記録的な寒波に震える極寒日本を後に中東のドーハ経由でタンザニアへ。6000m近いこの山はヒマラヤに比べれば短期間に登頂可能ですが、成功と失敗は紙一重。その時の体調、気力、天候そして運に左右されます。このツアーの企画コンセプトは勿論登頂ですが、登頂出来なかった場合のバックアッププランとして、東アフリカの代表的なサファリのンゴロンゴロ保全地域及びアンボセリ国立公園を訪れ、山とサファリの2部構成にしています。



(ジャイアント・セネシオ 2/18日)

登山風景

標高1700mのマランゲートを出発し、マンダラハット(2700m)、ホロンボハット(3700m)、高度順応で連泊、最後にギボハット(4700m)と1000m刻みに高度を上げ、仮眠後の真夜中に出発しウフルピーク(5895m)を目指し、登頂後はホロンボハットまで一気に下山し一泊。要するに5泊6日の速攻登山です。Nさん持参の必勝「日の丸」に寄せ書きし、いざ出発！ ※ハット=山小屋



(ラストウォーター手前 2/18日)



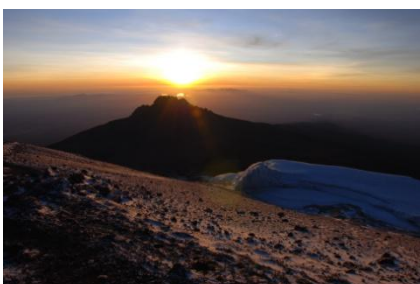
登頂

キボハットを 午後 11 時に出発。この時のサポーターはガイド 4 名、サミットポーター 5 名の計 9 名。午後 5 時頃から降り出したあられ交じりの吹雪も収まり（降雪 10 センチ）、南十字星が輝く赤道直下の凍てつく寒さの中、時折襲う横風によるめきながら頂上を目指しました。標高は勿論、暗闇と天候不順の狭窄からか、登頂者は予想 7 割に届かぬ 5 割と些か不本意な結果に。しかし、無理せず早めに諦めた皆様に拍手。絶対登るは絶対無事帰るから始まります。

最終日にガイド、ポーターの皆さんと解散式を行い感謝の心付けを渡し、キリマンジャロの歌で締めてなごり惜しく下山。現地スタッフ 50 余名に我々合わせ総勢 70 余名、何とも大きなトレッキング隊でした。余談ですが平均年齢は 60 代後半、頂上の印はスキー場の様な（味気ない）緑のボードに変わっていました。



(ギルマンズポイント直下の様子 2/19 日)





サファリ

キリマンジャロ登山の後は東アフリカ名物の動物サファリ。檻の無い広大な動物園にいる様な錯覚を起こすほど動物が密集生息する原野をサファリカーでゲームドライブ。 宿泊したンゴロンゴロ・ソパ・ロッジとオル・トカイ・ロッジはどちらもこんな原野に何故と思わせる素晴らしさで、アフリカの一夜を堪能しました。



(早朝のキリマンジャロ 2/23日)

<ンゴロンゴロ保全地域>

東西 19Km、南北 16Km、深さ 600mのカルデラの底に有り、インパラ、キリンを除く殆どの動物が見られる素晴らしい所です。北西に接するセレンゲティ国立公園と並びタンザニアを代表するサファリで 1979 年 自然遺産として世界遺産登録、2010 年には複合遺産として拡大登録されています。





<アンボセリ国立公園>

ケニアに位置するこの公園はアーネスト・ヘミングウェイが「キリマンジャロの雪山」を執筆した所。綺麗に広がった裾野を持つキリマンジャロの朝焼け（アフリカの夜明け）を見る事が出来ました。 このサファリの特徴は何と言ってもアフリカ象の群れ。



(像の行進 2/23日)



次回の天溪ツアーはアフリカ大陸から南アメリカへ所を移し「インカ道トレックとマチュピチュ遺跡 11日間」をお送りします。

記 天溪 赤沼(敏)